

# うつべ ふるさと 探訪マップ

~歴史・自然・暮らし~

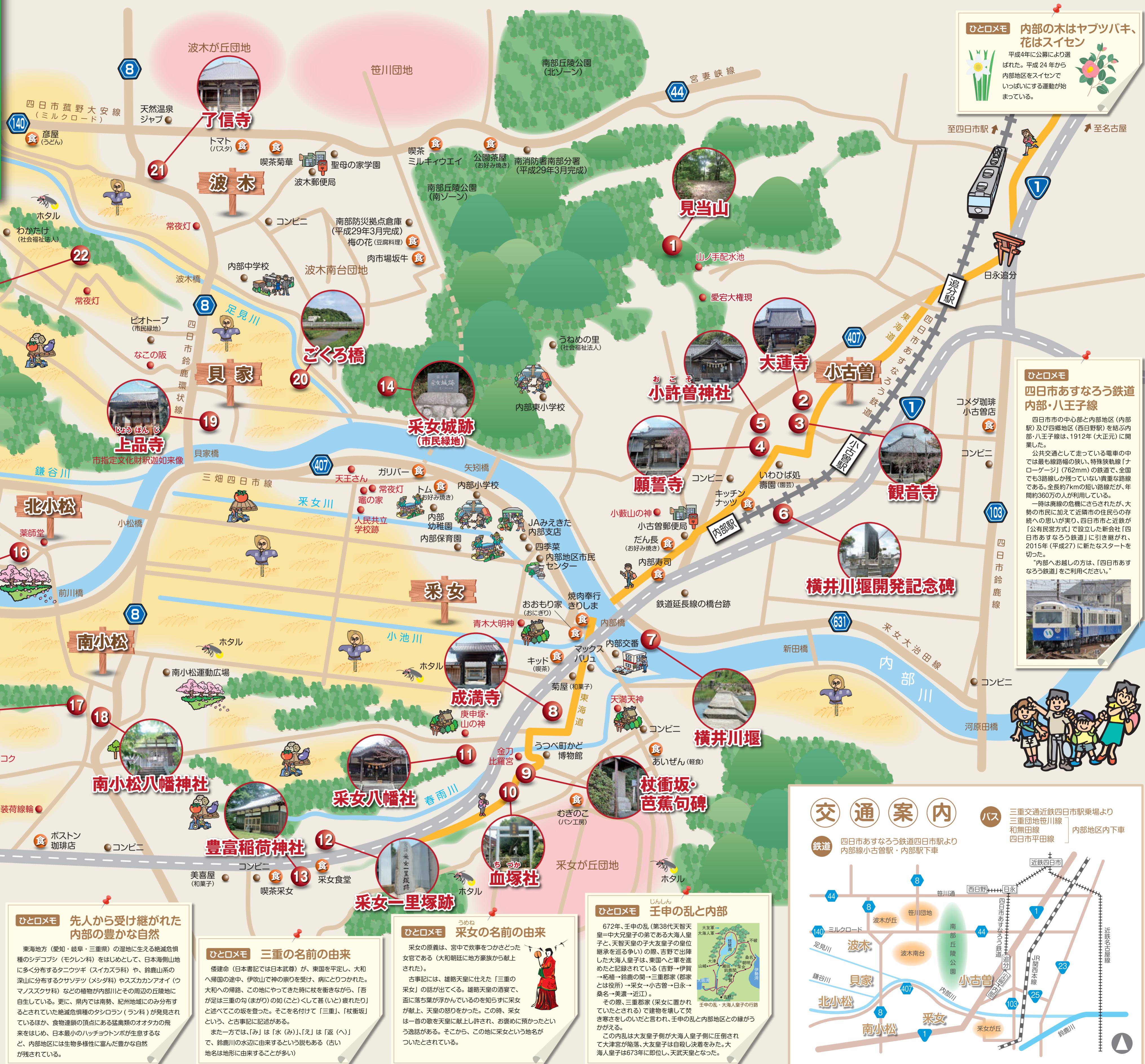


凡例

- この地図の縮尺は正確ではありません。
- 史跡のうち、番号についているものは裏面に説明を掲載しています。

発行: 平成27年度  
製作: 内部地区市民センター・内部地区まちづくり推進協議会  
TEL: 059(345)3951

協力: うつべ町かど博物館



**ひと口メモ** 内部の木はヤブツバキ、花はスイセン  
平成4年に公募により選ばれた。平成24年から内部地区をスイセイでいっぱいにする運動が始まっている。

**ひと口メモ** 四日市あすなろう鉄道 内部・八王子線

四日市市の中心部と内部地区（内部駅）及び四郷地区（西日野駅）を結ぶ内部・八王子線は、1912年（大正元）に開業した。

公共交通として走っている電車の中では最も路線幅の狭い、特殊狭軌線「ナローゲージ」(762mm)の鉄道で、全国でも珍しい狭い貴重な路線である。全長7kmの短い路線だが、年間約360万人の人が利用している。

一時は震度の危機にさらされたが、大勢の市民に加えて近隣市・住民からの支援への思いが実り、四日市市と近畿が「公有民営方式」で設立した新会社「四日市あすなろう鉄道」に引き継がれ、2015年（平成27）に新たなスタートを切った。

内部へお越しの方は、「四日市あすなろう鉄道」をご利用ください。



## 交 通 案 内

**鉄道** 四日市あすなろう鉄道四日市駅より 内部線小古曾駅・内部駅下車

三重交通近鉄四日市駅乗場より 三重環状線和田線 四日市平田線

**バス** 近鉄名古屋線



**ひと口メモ** 先人から受け継がれた 内部の豊かな自然

東海地方（愛知・岐阜・三重県）の湿地に生える絶滅危惧種のシダ科（モクレン科）をはじめとして、日本海側山地に多く分布するタニウツギ（スイカズラ科）や、鈴鹿山系の深山に分布するクササツイ（ミタケ科）やスズラン科（ウマノスズクサ科）などの植物が内部川とその周辺の丘陵地に自生している。更に、県内では気候・紀州地域にのみ分布するとしている絶滅危惧種のタラボラン（ラン科）が発見されているほか、食物連鎖の頂点にある猛禽類のオオタカの飛来をはじめ、日本最小のハッショウントボウが生息するなど、内部地区には生物多様性に富んだ豊かな自然が残されている。

**ひと口メモ** 三重の名前の由来

倭建命（日本書記では日本武尊）が、東国を平定し、大和へ帰國の途中、伊吹山で神の祟りを受け、病にとりつけられた。大和への帰路、この地にやってきた時に木を書きながら、「吾が足は三重の勾（まがの）の如（ごく）くして甚（いと）疲れたり」と述べてこの坂を登った。そこを名付けて「三重」、「枝衝坂」という、と古事記に記述がある。

また一方では、「み」は「みみ」、「え」は「返（へ）」で、鈴鹿川の水辺に由来するという説もある（古い地名は地形に由来することが多い）

**ひと口メモ** 采女の名前の由来

采女の原義は、宮中で炊事につきさせた女官である（大和朝廷に地方豪族から献上された）。古事記には、雄略天皇に仕えた「三重の采女」の話が出てくる。雄略天皇の酒宴で、落ち葉が浮かんでいるのを知らずに采女が献上、天皇の怒りをかいた。この時、采女は一首の歌を天皇に献上し許され、お褒めに預かったという逸話がある。そこから、この地に采女という地名がついたとされている。

**ひと口メモ** 王の乱と内部

672年、王の乱（第38代天智天皇=中大兄皇子の弟である大海人皇子と、天智天皇の子大友皇子の皇位継承を巡る争い）の際、吉野で出陣した大海人皇子は、東国へと軍を進めたと記録されている（吉野→伊賀→橋本→鈴鹿の関→三重郡（郡家とは役所）→采女→小古曾→日永→桑名→美濃→近江）。その際、三重郡（采女に置かれていたとされる）で建物を壊して焚き落としをしたとされ、王の乱と内部地区との縁がうかがえる。

この内乱は、大友皇子側が大海人皇子側に倒され、大津宮が陥落、大友皇子は自殺し決着をみた。大海人皇子は673年に即位し、天武天皇となった。